肱川

発行
肱川町企画調整室
電話肱川局 120
印刷　エヒメコープ印刷部

よい家庭　よい習慣はあなたが手本　（「大切」に運動入選標語）

広報メモ

※不燃物収集
・十二月二十二日（日）
・一せいに出してください
・よくまるめて出すこと。

※母親学級
とき・一月十六日
　十時～十二時
ところ・肱川町公民館
内容・歯科衛生のお話
講師・桧槇歯科衛生士

※乳児健康相談
とき・一月二十四日
　午後一時～三時
ところ・肱川町公民館

※国民年金保険料の増額改正
九月分より年金の支給額が一六・一％増額されたことにともない、保険料の額が昭和五十年一月分から現在額九〇〇円を一、一〇〇円に増額されます。

ふるさと通信

岐阜県大垣市
東真由美

肱川の皆さんお変りありませんか、私は毎日頑張っています。大垣の方では、もうみぞれが降りとっても寒い日をすごしています。私は二交代なので会社につとめないときは高校へ通っています。十一月の三日に文化祭がありました。

私は初めての文化祭だったのでもうビックリしました。会社では、私の仕事は糸つなぎが主です。最初のうちは、手が糸で切れたり、摩擦で手がすりきれたりで私はもう肱川に帰りたいと思ったこともありました。しかし、今では仕事にもなれてきました。早番のときなどとてもつらいです。中学生のときは、毎日が楽しく、ゆったりしていてたのが、いまではあまり自由時間もなく一日がびっしりです。何だかロボットみたいです。

もうすぐお正月――ふるさとに帰えれると思うともういてもたってもいられません。とても楽しみにしています。だって帰ると肱川の友達に会えるし、ふるさとが見えるし……。

帝国繊維大垣工場勤務
（大谷白石出身）

来年はどうなるんだろう

広報担当者座談会

〝選挙の年〟

激動の年……一九七四年も間もなく終ろうとしています。ある経済通話では、八〇年頃にならないと好況の波はこないとか、ちょうど七〇年代と八〇年代の中間のドン底時代！今はただ、堪え忍ぶしかないと……。

肱川町は、大幅な機構改革から二年を経て今年度町振興計画に基づいた第一歩を踏み出しました。

そうした中で、昭和五〇年という新しい年に向って本紙「肱川」を担当している委員は、来年卯年をどうみているか、それぞれの立場から話を聞いてみました。

司会　まず、今年は選挙の年といわれております。一月の知事選挙、四月の県議町議選挙、また、おそらくあるだろう衆議院議員選挙と重要な選挙が続いて行なわれます。これらについての取り組み方は、

A　過去肱川町では選挙違反はない、今までに築かれた伝統をよごさない選挙にしてもらいたいというのが一番心配でもあり願いでもある。

B　住みにくい世の中という感じを選挙民がどのように判定をくだすか興味がある。

C　流れとしてはかなり革新が押しては来ているが、もうひとつものたりない。本当に政権をまかしたら不安でたまらないというのが革新の実状ではないだろうか、

D　革新を支持するというのじゃないが、今の政権に不満をもっていることが一度革新にまかせたら少しは何んとかなるのでは、ということがかなり票の上に表われるのではないだろうか。

E　選挙で問題なのは、やはり金だ、町の選管や推進協議会で「明るい選挙をしましょう」「投票に行きましょう」といくらいっても上の方であれだけ金を使っていることがわかってるのだから馬鹿らしくなって選挙など行けんというのが先にたつ。

A　あれが困ったものだ。ある国会議員がいって「全部の党をなくして出直さんかぎり、今の状態はのうならん」といっていたが、そうでなくては人物本位の選挙にはならんだろう。そしたら少しは人物の良識というものが国政に反映されると思うのだが。

F　来年の総選挙はかってない重大な選挙になるだろうし、来年は日本を左右する選挙の年ということだ。

司会　行政マンとして選挙民に望むことは、

G　大切な年になる。単に投票に行くというだけでなく、正直に自分の思う人に投票すべきだ。これは町としてもPRしなければいけない。

〝農業はもとの経営形態に〟

司会　暗中模索といわれている肱川農業の行方は、

E　大型機械の使える農業が理想ではあるが、肱川ではとうてい無理、せめて中小の機械が使えるものにしたい。それには皆んなが目覚めて自分の家の近くに土地があるように交換分合をして能率の上がるようにしなければならない。

H　農業がいけないという原因は何か、

E　現金が定期的に入らんことと、労働の面でかなりきついということではないだろうか、これも農産物の価格が安定したら問題ないと思うんだが、

B　しかし、農業が見なおされて来たのではないか。人口は増える一方で食糧が不足するのは目に見えている。

C　世界的に食糧不足になれば輸入ができなくなり日本も自給自足ということが全面的にでてくると思う。

A　来年は自給自足のスタートの年になるんではないだろうか、

司会　前向きの意見は造改善事業は規模が大きすぎる。

D　今肱川で行っている構もう少し小規模で沢山やらしてもらえば良いのだが、

E　肱川の農家は肱川を基本にして生活をしなければならないのだからそういう声を上へあげるようにすべきだ。

来年卯年の方向を語る町広報委員の皆さん

出席者（敬称略）
佐久保恵一
中野博司
飛野弘幸
森繁
二宮賢一郎
安川武志
松尾国和
宮田章
司会
兵頭茂

〝来年は指導体制づくり〟

A　町、農協、森林組合が将来の農業問題をしっかりとらえて、もっとどんどん地域へ出ていって地域の中で自分等が農業をやろうとする気がまえをつくらなければならない。農協独自の資金も町が利子補給をして融資するなど活用すればやれないことはない。やる気があればできると思うので皆んなに農業を見なおしてもらうよう話し合いをしなければならない。

司会　やる気があれば肱川でも農業は成り立っていくうだろうか。

A　やれる。第一種兼業は農業を主に、第二種兼業は兼業を主にやればよい。ただ問題は価格の安定だ

B　指導は技術面だけでなく記帳についても指導すべきではないだろうか。収支をはっきりさすことによって仕事（作目）の良悪もわかってくる。

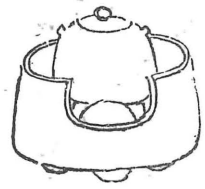
C　昔、農業簿記を奨励したけとがあるが内容がむづかしく失敗したことがある。記帳はむづかしいと思う。でも必要であることは間違いない。

E　経済的、時間的ゆとりがないと記帳はむづかしいだろうね。

A　指導を強化するには、農協、森林組合、町の三者が一体となってやらねば効果は上がらない。

F　臨時役場出張所で「農民は一人なのに、農協組合員、森林組合員と二役をせねばならぬ」という声を聞いた。何とか一体化を考えなければいけがい。

B　体制ができたら、農業に対する方針を町が打ちだす。そして事業実施の段階になったら農協、森林組合があたる。また技術指導もやる。指導をやった後の調査は町がやるという方法。その運用部分の資金の貸付は農協の手持資金を活用し、町が利子補給をするというようにやったらうまくいくのではないだろうか。



〝老人福祉は老人に仕事を与えること〟

司会　老令年金とか老人ホーム、老人医療などと老人対策に単に保護政策に終っているようだが。

A　老人福祉は今年度ぐらいが限度で、もう手をすけるような福祉は必要ないと思う。

C　年金は必要だが、老人が仕事をしたいといっても仕事がない。これが問題だたとえば農家に一頭づつ牛を飼うことが老人に仕事を与え、ひいては老人福祉となるのではないか。

D　今の老人はさみしそうなところがある。仕事を与えたら元気になって医者へも行く必要がなくなるのではなかろうか。

C　老人対策もここらで転換する必要がある。

司会　最後に町の施策である生活環境をよくする運動について話し合いたいと思うが。

A　大谷地区は県の指定を受けてコミュニティモデル地区として具体的な活動に来年度から入る。

C　他地区についても町独自で住民の意見をきいて指定をせねばならない。方法は検討する必要があるが。

B　運動も何かひとつにしぼってやる必要がある。

〝具体的運動で心を醸成〟

司会　現在は、花いっぱい運動、ゴミをなくする運動など具体的な形でやっているが、直接精神（心）教育などの考えは。

1　掃除をしたら心がみがけるといって小学生の頃は掃除をさせられたくらいだから。

B　やはり具体的な運動をとおして心をやしなう方がよいと思う。

E　今、公共施設を大切にするよう呼びかけている。しかし、一部地区ではあろうが集会所に行ってみると大変だ。会合をするといったらまづ大掃除をせねばならない。

C　公共施設を大切にという運動がまだ浸透しないということだろう。

F　道路でも地区の人達が雨降りにちょっと溝上げをしてもらうと助かるんだが

A　しかし、今は出稼ぎなどでやれないのではないか。人手がなく。

司会　やはり究極的には農業問題に帰るということだ。農業が栄えれば人手もできるし、心も豊かになる。きょうは貴重な意見ありがとうございました。

花いっぱい運動なら、それだけを徹底してやらなければならない。

E　花いっぱい運動に水をさしてもいけんのじゃが、家のまわりが花いっぱいで大豆いなぎもできない状態だ。困る位できた。

H　個人の家も大切だが、公共施設や街路にも植えたらよいと思う。

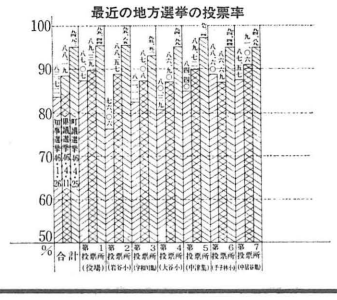
司会　ゴミの問題はどうか。

G　いまの包装はほとんどビニール製になっているが、それを家のまわりや川に捨てるので困っている。

D　川はゴミ捨て場という昔からの考え方があらたまっていないのではないか。

G　昔は捨てても腐っていたが今のビニールは腐ることはないのだから考えてもらいたい。

この一票で住みよい愛媛を
1月26日　県知事選挙投票日



六日は、県知事選挙の投票日です。

来年一月二十六日は、県知事選挙の投票日です。

地方自治体は住民の福祉を増進させるためにあります。その行政は、皆んなの日常生活と結びついています。

その仕事をする自治体の首長を選ぶのは、皆さん有権者なのです。

ふだんからもっと関心をもち地方選挙の重要性をあらためて認識し、すべての選挙に必ず投票に参加するようにしましょう。

昭和49年11月末現在

世帯数		1,109戸
人口	男	2,101人
	女	2,146人
	計	4,247人
		（前月比7人減）
転入		10人
転出		17人

（出生）　3人
大和　岩仲　美佳ちゃん
上鹿野川　宮本　武ちゃん
〃　冨永　美樹ちゃん

（死亡）　3人
影地　三浦　愛明さん（63才）
共栄　沖野　フジさん（82才）
小藪　竹本　トメさん（94才）

飲酒運転をしないさせないわが家のほこり
―年末年始の飲酒運転追放三〇日運動―

情報室

部落自慢ばなし

森　二宮賢一郎

子どもたちの清掃奉仕が何よりも自慢

森部落は、昭和三十年、地理的な関係で肱川町に合併した。ダムを見下す稍平坦な、日当りの良い所である。山槌に負けず自慢を並べてみよう。

最初に、各戸後継者の青年が、国道から見上げるような所だが、中央を通る町道は舗装され全戸車の発着ができる。

第四に、丘陵地だから、水がたりないからそこは努力で山間から、きれいな水を水道で、旱ばつでない限り不自由はない。（あまり豊富でないが……）大きなって、万一に備えている。防火タンク（消火栓）も造

つぎに、地形が大体平面であるから、三つの防犯灯で暗夜がない。一般的用件準優勝、優勝をくりかえしている。

次に、昔から支払いがきれいだと商人が、森ならかけ売りでも安心と言う。納税も、肱川町になって二十年、二十枚の表彰状が、公会堂に掲げてある。第三に

我が家で自家に適する経営をし、また、地元の仕事に従事していて、将来が明るい。僅か十二戸であるが、若い者が多いので、地区の部落対抗球技大会等にも、いつもよい成績を納めている。特に、ソフトボールにおいては、

は、放送マイクで報知、農協の車が来れば頼む品、受け取る品、各戸から一輪車押して公会堂へ集まる。公会堂は、三十四年建築以来雨の日も風の日も、毎週日曜日になると、小学一年生以上の生徒達の手で掃除をしてくれる。何度となく県の方からまで表彰を受けている。このことは、声を大にして自慢できる一つだ。

最後に、長寿者が多く、六十五才以上九十二才まで十二戸で十二人もいる。この春まで十四人だったが……。この人達も、毎日毎日、昼までに、昼からと憩いの場所である公会堂に集まって、耳もとで大きな声で話し、笑っている姿は、何んとなくのんびりして楽しいものだ。

おわび　先月号の本欄で山槌から寄稿していただきました谷本一敏氏の人名紹介で「谷本敏一」となっていました「谷本一敏」が正しい名前です訂正しておわびいたします。

九七五年農業センサスはじまる

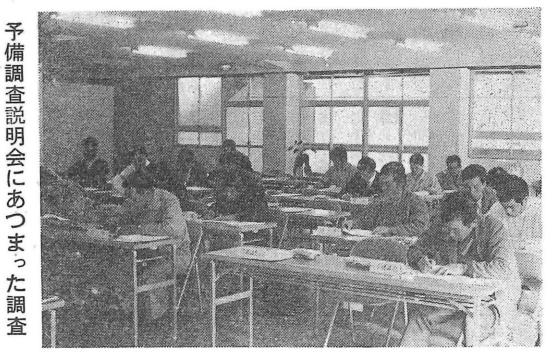
来年二月一日現在で、全国いっせいに農業センサスが行われます。

この調査は、昭和二十五年から五年ごとに行われ、農業の最も基本的な統計調査として、戦後農業の歴史とともに歩んできました。

今、わが国の農業は再び厚い壁にぶちあたり、これを突破する新しい行政を展開する必要があり、そのためにも農業のありのままの姿を知るたしかな統計を整備する必要に迫られています。

特に、前回センサス以後のわが国農業の動きは、いまだかつてないほどの激しいものがありました。今回のセンサスは、過去のどのセンサスより重要なものといえます。

当町の調査対象は約八五〇戸で、各部落ごとに四〇人の調査員が農家をお訪ねし、聴き取りの方法で就業の状況、土地、家畜、農業機械の状況、雇用労働状況、農産物の販売状況を調査することになっております。センサスの重要性をご理解いただき、よろしくご協力をお願いいたします。



予備調査説明会にあつまった調査員のみなさん

緑花木を植樹

「大切に」運動だより

川上商工会青年部と町役場職員会では、このほど県の補助を受けて購入した緑花木を道路や河川の沿線に植樹しました。

国道沿線には、夾竹桃一〇〇本を、河辺川およびダム下流の沿線には、しだれ柳一〇〇本をそれぞれ植樹しました。

国道沿線には、昨年も夾竹桃三〇〇本を植え込んだが、不心得な通行人のため一部引抜かれているところがあり、その補植をしたものです。道行く人びとの暖かい心がけが強く望まれます。

植樹する役場職員

民生委員全員再任される

民生委員は、社会奉仕の精神をもって、自主的に社会福祉の増進に努めており、その職務は地域住民の福祉の向上と、公的社会福祉施策への協力など広範にわたっています。

このほど任期満了に伴う改選の結果、全員が再任になりましたが、今後とも地域の実情に応じた民生活動が、大いに期待されます。

肱川町民生（児童）委員の担当区域

事項 / 担当区域	民生委員 部落	民生委員 氏名
中居谷	中居谷	戒野智恵子
協生，共栄，嘉城	共栄	長田　睦雄
上森山，山槌，道野尾	上森山	宮本　正巳
小畑井，汗生，萩野尾	汗生	中野嘉太郎
小藪	小藪	森本　鶴雄
白石，影地，広常	広常	都谷　藤子
大平，久保，大屋敷	久保	堀尾　末子
森，肱栄	森	兵頭　定雄
大和，中野	大和	楠野仁十郎
上，下鹿野川，月野尾，三和	下鹿野川	福田　哲秋
敷水，下，上敷水菟野尾	下敷水	佐久保邦澄
下，上嵯峨谷，橡の木瀬	上嵯峨谷	下石　政美
予子林	瓜生谷	山中　美茂
中津，小倉	中津	坂本　正男

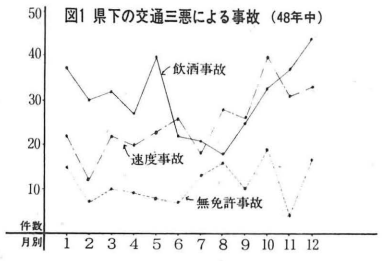
交通三悪による事故は年末、年始に多発

交通三悪といわれる飲酒運転速度違反、無免許運転による事故は、年末に増加する傾向にあります。

なかでも特に飲酒運転による事故は、年末、年始に多く発生しています。（図1参照）

飲酒運転による死亡事故が増加

昨年中の県下の飲酒運転による事故発生件数は、三六六件で前年（四十七年）に比べ六八件減少していますが、死者数は三五人で、前年に比べ八人増加しています。



家庭から飲酒運転を追放

また、今年は死者がさらに増加の傾向にあります。

主婦が中心となり、家族ぐるみで次のことを申し合せましょう。

○酒の出る会合に出かけるときや飲酒後外出するときは車を運転しない。

○車を運転してきた客には酒を出さない。

○飲酒運転をさせないよう「キイ」の保管に家族みんなが注意する。

歳末たすけあいにご協力を

ことしも「皆んながそろって明るいお正月を」むかえるため、私たちより更に困っている立場の人への援助。長期療養者へのお見舞当町に関係のある福祉施設への慰問金を贈ることを考えて、義援金の募金をお願いしております。

義援金の募金方法は、部落長さんを通じて義援金入れの封筒を各戸へ配り、二十六日までにまとめます。そして二十七日に民生委員協議会を開き、義援金の整理と配分を決め、早速配分することにしております。

どうかよろしくご協力お願いいたします。

石はワシの男友だち……

……そう……半世紀ですらい

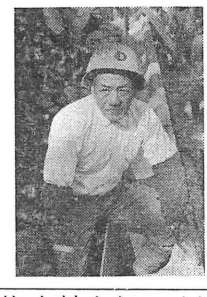
肱栄　菅野重吉さん（73才）

インタビュー

石一筋に生きて四十七年の石工さん。町内で石の長老である。

―石に手掛られたのはいつ頃ですか。―

◎　石工をはじめたのは二十六才ごろで私は石を使うことが好きで誰にも教わることなく自己流で石をはじめました。



「ブロック積は六十五才頃から。何といっても二十九才頃の石積がなつかしい」と語る菅野さん（農道菟野尾線にて）

―石を積みはじめて何年になりますか。―

◎　石を積んで四十七年になります。

―町内で菅野さんが最初に石積みを行ったところは伴い中津発電所が建設されました。その発電所の上部にある取水路の石積を行ったのが最初で今も私の頭にこびりついています。

―この頃の石まわしさんはどうでしたか。

◎　年若いし技術も充分身につけてないためかわざとに大きい石を持って来て石工の苦労するのを見て笑っていた人もありましたが大変な違いです。

こんにちの人は良く動き活で思い出の工事はありますか。

―四十七年間の石工の生

◎　二十九才で大正十三年頃と思いますが、長浜町今坊にあります水源池（飲料用）の堰堤工事です。現在ではコンクリートにより施工しますが当時の堰堤は練石積でした。水源池の堰の高さは十九間（約三五㍍）堰の長さ三十七間（約六十七㍍）この石積に私のすべてを掛けて取り組みました。

工事を完成させた時に私はこれからも一生を石工の道を歩むのだと決心してこんにちに至りました。

―この堰も約四十五年ほど経過しておりますが石積はどうですか、また当時の日当はいくらですか。

◎　今も今坊の山で元気でおります。水源池として使用はしてないようです。

日当は三円、米一升十六銭、酒一升七〇～八〇銭程度だったと思います。私は晩酌をやりますので酒の値段より本数ならわかります。ハハハハ……

―何本ぐらいですか。

◎　晩酌だけで九千本以上やっています。

―当時現場監督さんの姿はどうですか。

◎　赤すじ入りのハッピ姿できびしい人達でした。

―これからも石工を続けますか。

◎　私の好きな職業です体の続く限り石工の道を歩みます。

「おわりに」

菅野さん宅を訪問して石工の道を訪ねましたが、奥さんの食物についての気の配りようと、「四十七年間酒一合を燗することと風呂をわかすことだけに終始しました。」と語ったその奥さんのことばが印象的だった。

思い出の工事後長浜町今坊にある水源池の堰完成写真に昔を懐しむ老夫婦のゆくすえを偲びながら……。（松尾委員）

こんにちは赤ちゃん

森部落、兵頭春雄さんの二女（第三子）

小春日向の暖かい、日のあたるおエン側の蒲団の上で外気浴をしています。お目めをパッチリ、心なしか少し顔色が白すぎるように見えますが、のぞいた瞬間ニッコリ笑いア、……と語りかけます。

知栄ちゃん「ご退院おめでとう」。

知栄ちゃんは体重も充分あり外見はとても健康そうな赤ちゃんとして生声をあげましたが五〇〇〇人に一人という「ヒルシニスプルング病」（腸に細いところがあり便の通りが悪るく腐敗する）という病気にかかり、去る十一月、生後四十三日めに手術を受け人工肛門を造設せられました。

兵頭知栄ちゃん（生後2カ月）

手術後の経過はよく、十二日めに退院して、その後は週一回通院、経過は順調にいっています。

知栄ちゃんは生後十時間たっても胎便が出ないので浣腸をしたり、レントゲン撮影数回また、お母さんは出産後二日めより知栄ちゃんとともに大洲へ、松山へと通院しました。

しかし、今ではお母さんは出ない乳房を含ませながら、何とかして母乳をと食事面についても努力をせられたせいと手術後の経過の良いのも手伝ってか今では母乳の出も良くなりました。

手術のあとのガーゼ交換は一時間ごとで夜はついうとうとして三時間も寝すごす時があり、こんなときは背中までぐっしょりの時があるそうです。

八カ月頃体重が八キロくらいになれば自身の肛門より排便ができるようにもう一度手術が行われ、そのあと排便の訓練が必要なのです。

知栄ちゃん、お母さん頑張ってください。家族の皆さまはもちろん、私達みんなで知栄ちゃんの回復を祈っております。